

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	
施 設 名	第一生命ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	8,346	(千円)
	公 演 事 業	5,636 (千円)
	人 材 養 成 事 業	621 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,089 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ロビーでよちよちコンサート	R4. 6. 20, 21/R4. 10. 28, 31/R5. 3. 2, 3	出演：マルシェ弦楽四重奏団、TANBRASS、他 演目：荒城の月・ドレミの歌他	目標値	540
		第一生命ホールロビー		実績値	599
2	音楽と絵本コンサート	R4. 5. 7	出演：金子三勇士、河野彬、西村薫、和田美菜子、他 演目：もりのピアノ、他	目標値	500
		第一生命ホール		実績値	582
3	クリスマス・オーケストラ・コンサート	R4. 12. 11	出演：ARCUS（アルクス） 演目：フィガロの結婚序曲、クリスマス・フェスティバル他	目標値	980
		第一生命ホール		実績値	1,707
4	子育て支援コンサート	R5. 2. 18	出演：小川典子、道クワルテット、森田樹優 演目：こんとあき、他	目標値	500
		第一生命ホール		実績値	633
5	トリトン晴れた海のオーケストラ	R4. 10. 1/R5. 1. 21	出演：トリトン晴れた海のオーケストラ、小林愛美、他 演目：大フーガ、他	目標値	1,080
		第一生命ホール		実績値	2,065
6	室内楽の魅力～小山実稚恵の室内楽	R4. 12. 3	出演：小山実稚恵、川本嘉子 演目：ヴィオラ・ソナタ第1番、無言のコラール集、他	目標値	420
		第一生命ホール		実績値	292
7	室内楽ホール de オペラ「ルチア」	R4. 10. 22 ※中止	新型コロナウイルス感染症の影響により中止（出演者が感染）。	目標値	490
		第一生命ホール		実績値	— ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アウトリーチセミナー	R4. 7. 20~R5. 3. 23	出演：松原勝也、安田沙織、岩澤なぎさ、神田尚己、他 演目：ベートーヴェン弦楽四重奏曲第12番、他	目標値	受講生3名 参加者アウトリーチ150名 オープンハウス700名 ロビーコンサート50名
		第一生命ホールロビー一、中央区立京橋築地小学校、他		実績値	受講生3名 参加者アウトリーチ157名 オープンハウス801名・35組 ロビーコンサート53名
2	サポーター研修	R5. 1. 28	外部講師：角屋里子	目標値	15名
		第一生命ホールロビー	内容：バックステージツアー及び接遇研修	実績値	7名
3	ウェールズ・アカデミー	R4. 4. 24~R4. 11. 19	出演：ウェールズ弦楽四重奏団、アカデミー受講生 演目：モーツァルト弦楽五重奏曲第4番、他		受講生8名 参加者 動画視聴100名／ 公開リハーサル20名

		第一生命ホール、ホールリハーサル室、他		実績値	受講生 12 名 公演来場 者 220 名 ※
--	--	---------------------	--	-----	-------------------------------------

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オープンハウス 2022	R3. 7. 10	ホール公演出演：どやどや楽団他 アウトリーチ公開出演：松原勝也他 演目：剣の舞、きらきら星変奏曲他	目標値	700名
		第一生命ホール		実績値	公演 801名 アウトリーチ公開 35組
2	アウトリーチ	R4. 6. 24～R5. 2. 10 ※コロナ禍のため一部学校などは未実施あり	出演：浜まゆみ/TANBRASS/バズ・ファイブ/田村緑/日本音楽集団、他 演目：実施先毎に打合せて内容決定	目標値	小学生 1500名、幼稚園保育園児 700名、高校生 40名、発達支援センター 20名、介護施設利用者 300名、医療機関 30名
		中央区、江東区小学校 他		実績値	小学生 1833名、幼稚園保育園児 567名、中高校生 216名、介護施設利用者等 71名、医療機関無し※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当団体のビジョンは「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッションは「音楽によるコミュニティの活性化。音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」である。ホールがある地域の特性としては、東京臨海都市の人口急増地域であり、特に年少人口を有するファミリー層の増加が顕著であることから、まちづくりが急務の課題となっている。このミッションと地域特性に基づき以下の事業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・「公演事業」では、毎年0歳からホールに入場できるよう年齢別にステップを踏んだシリーズをつくり、ホール専属で、地域の名（晴海）を冠した「トリトン晴れた海のオーケストラ」を継続、ホールの音響特性を活かした室内楽やオペラもシリーズ化して行うことで、子どもからクラシックファンの大人まで、質の高い音楽を楽しめる流れを組み立てている。公演の関連企画として、中央区と連携した講座を行い、適切な広報宣伝など予定通りに事業を進めた結果、完売になる公演が多く、公演を追加するなど地域住民の鑑賞機会を増やすことができた。・「人材養成事業」では、若手演奏家がアウトリーチを学ぶ「アウトリーチセミナー」を予定通り実施、新しく開始した「ウェールズ・アカデミー」は予想以上の応募があり、受講生枠を予定より増やして実施。地域文化リーダーであるサポーター（ボランティア）育成のための研修もコロナ禍以降初めて実施することができた。・「普及啓発事業」では、ホール近隣の小学校、幼稚園・保育園、福祉施設等で当初予定通りの数のアウトリーチを実施。地域で増加する新規住民にホールを身近に感じてもらうオープンハウス2022をサポーターと実施した。引続きコロナ禍により、公演延期や病院アウトリーチは実施できなかったが、活動全体としては、質、量ともにコロナ禍前水準の活動を行い、多くの方と音楽の楽しさを分かち合うことができた。
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<ul style="list-style-type: none">●文化的意義：公演事業（主催公演）は、すべて当団体のオリジナル企画、制作である。NHKドキュメンタリー番組が放送されるなど評価が高い「トリトン晴れた海のオーケストラ」を始め、質の高い室内楽シリーズ、親子向け「音楽と絵本コンサート」等、対象者に応じた質の高い公演を提供。人材養成事業では、地域の文化発展に貢献する若手演奏家や地域文化リーダー（ボランティア）を育成。普及啓発事業では、公演事業にも出演する演奏家と、人材養成事業で育成した演奏家が中心となって、ホールに来られない方へアウトリーチを実施し、地域の人々に質の高い音楽を提供している。●社会的意義：公演事業では、年代や対象者別の公演実施により、あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤構築の一翼を担っている。人材養成事業では、「ウェールズ・アカデミー」でアンサンブル力を磨いた受講生から、プロオーケストラ奏者を輩出するなど若手演奏家の発掘・育成に貢献。サポーター（ボランティア）やアートマネジメントに関心ある学生インターンの文化芸術活動への参加機会を提供。普及啓発事業では、ホールに来られない人々のもとへ出向くことで、音楽の力で教育・福祉・地域振興などに寄与している。●経済的意義：年齢別の「子どもといっしょにクラシック」シリーズを継続実施し、他全公演で25歳以下対象のU25券を設定するなど、質の高い音楽を青少年が低廉な価格で鑑賞できる公演事業を行うと同時に、普及啓発事業として地域で（特に中央区では区立小学校全校で）小学4年生を対象としたアウトリーチを継続。ほかにも保育園、幼稚園、認定こども園、発達支援センターなどと連携したアウトリーチを継続実施することで、地域住民がホール内外で質の高い音楽に触れ、サポーターとして交流できる機会を生み出している。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業指標達成状況

目標①公演毎のチケット販売数 目標の119% (中止公演除く)

事業合計販売枚数：5,868枚 (全体目標：5,380枚、中止公演を除くと目標4,940枚)

※完売となり目標を超えた公演も多く、全体として目標を大きく達成することができた。テレビ放送の影響もあるが、子ども向け公演は、継続して質の高い公演を提供し続けていることも大きい。

目標②子どもの入場者・参加者率 (事業1~4)、小学生以上25歳以下対象のU25券販売枚数 (事業5~7)

事業1：99.8% (目標100%)、事業2~4合計：97.4% (目標80%)、事業5~7合計：176枚で、全体としては達成できた (事業5公演増加及び事業7公演中止のため、目標は150枚に上方修正)。

※継続している事業のリピーターが多いこと、新たな層に効果的に宣伝できたことなどから目標が達成できた。

目標③公演共通アンケートによる満足度 (事業5、6)：「本日の公演はいかがでしたか？」(5段階評価)に対する「大変満足」「満足」の割合が、事業5で98.9% (目標97%)、事業6で100% (目標97%)。

※演奏家と丁寧に制作した公演が評価され満足度が高く、目標を大きく達成できた。

目標④チケットデスク顧客分析による購入者に対するリピーター割合：60.1% (目標：65%)と未達だったが、チケット購入者が増えたため、リピーター数そのものは21年度2,247名から22年度3,632名と大幅に増加。

●人材養成事業指標達成状況

目標①アウトリーチセミナー受講生3名の育成：目標通りセミナー生3名をオーディション選抜し育成。

目標②アウトリーチセミナー生によるアウトリーチ実施回数：小学校で2回と目標回数(3回)に未達だが、小学校は2校とも4年生だけでなく5年生に向けても実施。

目標③アウトリーチセミナー修了生によるアウトリーチ実施回数：8回と目標(7回)を達成できた。

目標④外部講師による接遇研修へのサポーター参加者数：参加は7名で目標15名に未達だが、2年ぶりにロビーでリアル開催できたことは有意義であった。

目標⑤ウェールズ・アカデミーのオーディション合格者100%ホール公演出演：有意義なレッスンも含め達成。

●普及啓発事業指標達成状況

目標①アウトリーチ実施回数：計31回と全体では未達だが、幼稚園、保育園、こども園は6園、小学校は20校、高校は1校実施と目標どおり、さらに新たに中学校1校実施。コロナ禍で病院、介護施設で未達。

目標②オープンハウス来場者数等

(ア) オープンハウス来場者数：801人 (2回公演合計)、目標700人を達成できた。

(イ) 初めてホールに来た割合：54%であり、目標75%には未達だったが、リピーターが増えた結果でもある。

(ウ) オープンハウスアンケートによる地域住民割合：76.9%となり、目標80%には若干未達であった。

3. 小学生への共通アンケートによる満足度

質問(ア)「本日のコンサートはどうでしたか」に対する答え、「とてもよかった」と「よかった」の割合90.1% (目標95%)で未達だったが、「ふつう」や「おもしろくなかった」に○をつけていても、感想の中でとても豊かな体験だったことを示す内容を書く児童が多いので、指標としての数字だけを伸ばすことにはあまり意味がないと考えている。コロナ禍で活動が制限される中、印象深い体験だったことをうかがわせる感想が多かった。

質問(イ)「もっと色々な音楽を聴いてみたいと思いましたか」に対する答え、「とても思った」「すこし思った」の割合86.6% (目標85%)で達成できた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●事業期間

・年間で様々な対象者に向けた公演を行い、またその数か月前に情報発信、チケットを発売する計画を立てて、適切にチケット発売前から広報宣伝することができた。「トリトン晴れた海のオーケストラ」は、5月にNHKでの放送が決まったため、それに合わせてチケット発売を計画したところ、大きな反響があり即完売となって追加公演が決まった。他の親子向け公演もアウトリーチ対象の小学校でチラシやコミュニティペーパーを配布してもらうなどしているが計画的に配布時期を決めて券売を後押しし、どれも完売とすることができた。なお、出演者コロナ感染のため、事業番号7は残念ながら中止とした。

・人材育成事業に関しては、「アウトリーチセミナー」は計画通り、サポーター接遇研修（外部講師による）についても、2年ぶりにホールに集まって実施することができた。また、R4年度からの新たな試みである「ウェールズ・アカデミー」も年度2・3月にオーディションをし、優秀な若手が多く応募したため当初より受講生を増やし、レッスンもその分増えたが、8か月のレッスンは内容が濃いものだった。レッスン公開はコロナ禍の影響でできなかったが11月の公演の内容はすばらしく効果的なアカデミーとなった。

・普及啓発事業について、アウトリーチについては、一部の受入れ先で実施時期の変更などがあったが、学校などには年度初めに一斉にアンケートを送り実施希望時期を聞き、演奏家と予定を調整するなどして計画通りに実施することができた。オープンハウス2022は、計画通り適切に実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●収支予算・実績（各事業毎）

(単位：千円)

	公演事業			人材養成事業			普及啓発事業		
	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異
収入	13,840	20,108	6,268	0	0	0	853	910	57
支出	20,343	22,216	1,873	821	819	-2	4,744	4,634	-110
収支	-6,503	-2,108	4,395	-821	-819	2	-3,891	-3,724	167

【公演事業】

・引続きコロナ禍の中での公演が続き、一部の公演が中止となった一方で、NHKで特集された「トリトン晴れた海のオーケストラ」公演テレビ放送の影響や、質の高い子ども向け公演の継続実施や近隣小学校などでのチラシ配布などの効果、来場者が大幅に増加し、追加公演の決定で支出が増えたが、チケット収入は予算を大幅に上回った。チケット発売前に計画的に広報宣伝をしたことで、事業費も削減でき効率よく券売ができた。

【人材養成事業】

・アウトリーチセミナーは、オープンハウスで集中セミナーをし、その後小学校で2回実施することで、リハーサルの時間をもち効率よく計画的に進めることができた。サポーター接遇研修はコロナ禍後初めて計画通りにホールで対面実施。初めて実施したウェールズ・アカデミーは優秀な若手演奏家の応募が多く、オーディションに合格した全員が、11月のウェールズ弦楽四重奏団公演に参加し、アカデミーの成果を披露することができた。

【普及啓発事業】

・オープンハウスは、全席指定（無料）でのステージ公演及び貸会議室での「アウトリーチ公開」を実施。サポーターとともに運営を検討・実行するとともに、アウトリーチを公開して親子ともに参加してもらうなど工夫を凝らして実施。また、アウトリーチについては、コロナ禍の中であったが、ほぼ予定通りの活動が実施できた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

主催事業の企画立案から実施、振り返りまでを、当団体のプロデューサー中心に制作スタッフが企画毎に演奏家と共に行っており、オリジナルの多彩な事業を展開している。

(1) ホール公演事業

●「子どもといっしょにクラシック」シリーズ

ファミリー人口が増える地域のニーズに応える「子どもといっしょにクラシック」シリーズを拡充。0～3歳児向けの「0～3歳児と妊婦さんのためのコンサート」、4歳以上入場可の「クリスマス・オーケストラ・コンサート」「子育て支援コンサート～こんとあき～」音楽と絵本コンサート～もりのピアノ～などの年齢別シリーズを継続することで、幼少からホールで音楽を楽しむ層を育成しており、地域の文化拠点としての機能を発揮できた。

●第一生命ホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ」は、旗揚げからのモーツァルト後期の交響曲公演の後、3年にわたるベートーヴェン交響曲全曲演奏会を計画的に行っており、特にその最終回となるR3年11月のベートーヴェン「第九」公演がNHKドキュメンタリー番組やEテレ「クラシック音楽館」で放映された。日本を代表する奏者たちが集まり、指揮者を置かず、コンサートマスターの矢部達哉を中心に話し合いでリハーサルを進めアンサンブルをまとめていく姿が注目され全国的な話題となっている。お互いの「第九」ライブCDは「レコード芸術」誌で「特選盤」となるなど知名度も高まり、地域が誇れるオーケストラとして成長している。R4年度は、ベートーヴェンが「第九」後に作曲した後期の弦楽四重奏曲や「大フーガ」に弦楽オーケストラで取り組むなど、ホールの特性を活かした室内オーケストラのあり方を追求し、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であると自負している。

●「小山実稚恵の室内楽」は5年間継続、6回公演で、うち3回でヴィオラ川本嘉子とのデュオを取り上げた。R4年度の最終回では、このふたりのデュオのために権代敦彦がコロナ禍の中で生まれた新作「無言のコラール」を作曲、中央区民カレッジと連携し、権代氏の話を書くなど地域住民に事前講座で理解を深めてもらい公演鑑賞につなげた。（権代氏は公演当日のプレトークも実施。）

(2) 人材養成事業

●若手演奏家のための「アウトリーチセミナー」は、近年注目され、また当団体も力を入れているアウトリーチに特化した創造性のあるセミナー。小学生が高い集中力を持って弦楽四重奏曲を聴くことができるプログラムを毎年新たに創造、若手演奏家がアウトリーチの手法を学べる稀なセミナーであるとともに、修了生にはその後アウトリーチで活躍する機会も提供している。地域の子どもたちにとっても他にないプログラムを体験できるものとなり、まさに地域の文化拠点としての機能を果たしている。R4年度からはホール事業で6年間のシリーズを継続していたウェールズ弦楽四重奏団と新たに「ウェールズ・アカデミー」を開催、弦楽四重奏や室内楽の分野で若手演奏家の育成をして、室内楽の演奏家のレベルアップ、裾野を広げることに貢献している。

(3) 普及啓発事業

●小学校アウトリーチでは、音楽教諭に学習進捗状況を確認、各担当が演奏家とプログラムを制作し、経験豊富な演奏家が各学校の要望に合わせたプログラムを作っている。中央区と近隣江東区小学校の毎年4年生対象に行うことで、在学中に、少人数で密度の濃いアウトリーチを必ず提供できることになっている。

●ホール開館以来毎年実施している「オープンハウス」は、新規流入も多い地域住民にホールを知ってもらうため無料で開催、入場者は地域住民（中央区・江東区）が約77%となっており地域の文化拠点としての機能を果たしている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

・オープンハウス 2022 の開催

（オープンハウスアンケートより）「今回、初めて第一生命ホールへ伺いました。6歳の娘・高齢の母のためにと申込をしましたが、私自身もとても楽しみ感動しました。自宅が近いのに、どうして今まで来ていなかったのだろうと後悔しました。」（40代女性）「トリトンスクエアには何度も行っていましたが、あんなに素敵なホールがあるとは知りませんでした。大好きな『木星』の演奏も聞くことができ感動しましたし、子どもたちが描いた宇宙の絵を映し出すという試みもとても楽しかったです。また第一生命ホールを訪れたいと思います。」（30代男性）など、初めての来場者にホールの魅力が伝わったことが分かる。

・トリトン晴れた海のオーケストラ（晴れオケ）

「ベートーヴェンへの新しい扉を開いてくれた「晴れオケ」は今後も要注目。常に自分を磨き続ける演奏家たちの努力にも感謝したい」と音楽ライター片桐卓也氏が「音楽の友」2023年2月号コンサート・ベストテンで晴れオケ第11回演奏会を第1位に選出するなど専門誌での評価が高いのはもちろん、地元の聴衆からも絶大な支持を集めている。晴れオケ第11回アンケートからは「NHKの番組を拝見し、近くにこんなオーケストラがあることを知りました。指揮者がいないオーケストラでこんなにも音が一つに聴こえる演奏レベルに感動しました。」「子どもが鑑賞できていて、次世代に音楽の素晴らしさを伝える機会となりとても良いと思います。」第12回アンケートからは「晴れオケ演奏会。毎回足を運んでいるけど、何度聞いてもアンサンブルが美しく、とても暖かい。その美しさがいかに発揮されたのは、ベト pf 協3番の第2楽章。小山さんの静謐なピアノの響きと、オケの深い調べが合わさり、この上ない世界がホール全体に広がっていた。今秋のベトのチクルスも楽しみ」などの声をいただいており地域ホールで地域住民のためにここにしかない質の高い公演が行われていることで、幅広い年齢層の来場につながり地域の文化芸術の発展につながっていると考えられる。

・「子どもといっしょにクラシック」シリーズ

「毎回楽しみにしています。よく耳にする曲も、目の前で生演奏して頂くと、すごく新鮮でこんなに素敵な曲だったんだと感動します。乳児を連れて行けるコンサートはほとんどないので本当にありがたいです。おかげさまでリフレッシュしてまたしばらく頑張れそうです。」（0-3歳のためのコンサート）「トリトン主催の子供コンサートはいつも来ていますが、年に2回？3回？しかない音楽の絵本コンサートは絶対にハズせないで今日も来ました。」（こんとあき）などのアンケートから分かるように、子どもの年齢に応じた公演を継続して行っていることで、幼少時からホールで音楽を親しむ層を作りだしており、地域の文化芸術の発展につながっている。

・中央区文化生涯学習課との連携企画の実施

8年前から継続実施している中央区民カレッジは、講義、公演鑑賞を組み合わせたプログラムとしている。過去の講座参加をきっかけに、当団体の活動を知りサポーターに登録した方もいる。

・地域のボランティア（サポーター）受け入れ

毎年約60名の登録サポーターと共に、ホール事業、コミュニティ事業に関わる活動をしている。大学生、大学院生でアウトリーチを学びたいというサポーター、インターンも受入れているが、過去に小学生の時に当団体のアウトリーチを実際に体験したという大学院生もおり、地域で文化芸術への興味関心を醸成している。

・広報誌「トリトンアーツ通信」を年10回発行し、アウトリーチ先の小学校、保育園、幼稚園等に児童、園児数分配布している。小学校で行ったアウトリーチのレポートなどを写真付きで掲載して、地域に情報提供しているほか、子ども向けの公演やイベントへの参加、サポーターの登録はこの「トリトンアーツ通信」を見たのがきっかけという例も多い。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

・組織運営として、すべての事業活動は「事業計画」に基づいて行われ、「理事会」（年4回開催）、企画分科会（月1回開催）等において、計画立案及び活動報告と振返りを実施し次の事業に活かしている。企画分科会では各公演・コミュニティ活動について企画・運営について話しあうPDCAサイクルのPlanの機能を担うとともに、実施した（Do）後に、運営面・広報宣伝・アンケート分析等による活動全般の振返りといったCheckも行い、次につなげている。また、外部の有識者からなる「評価委員会」で活動を第三者視点で評価し（Check）、評価の内容、提言を事業活動にフィードバックしている（Action）。

・人事戦略として、正規職員雇用率は80%。第一生命保険株式会社からの出向者2名以外は全員、プロバーの制作スタッフであり、公演事業と普及啓発事業、両方を担当することで双方の事業に相乗効果をあげながら取り組めるようにし、実績によってアソシエイト・ディレクター、ディレクターへ昇格の仕組みがある。少人数体制につき体系だった研修が難しいため、各自のスキルアップを外部講習、セミナーを活用し、経費補助を行っている。正職員の平均勤続年数は、13年9か月であり、定着率が高く団体内でスキル、経験を積める制度となっている。また、様々な属性のサポーター（ボランティア）63名が活動に参画できるメニューを用意している。サポーターとの絆を維持・強化するための取組みとして、バックステージツアー及び接遇研修の実施や、サポーター通信の発行による情報提供などを行った。

・安定的な収益基盤と財源をするため、下表のとおり個人会員・法人会員・寄付金・協賛金等、多様なファンドレイジングに取り組んでいる。R4年度は、第一生命保険への個人寄付呼びかけキャンペーンを行うなど、財務基盤強化に取り組んだ。

区分		R2	R3	R4
個人会員	会費	7,050千円	6,720千円	6,430千円
	会員数	682名	645名	618名
法人会員	会費	23,400千円	22,800千円	19,700千円
	会員数	55社	54社	54社
個人寄付金	金額	3,847千円	2,565千円	4,635千円
法人寄付・協賛金	金額	50,979千円	54,229千円	55,104千円
助成金	金額	11,655千円	12,012千円	11,501千円

・上記の支援者には広報誌「トリトンアーツ通信」を年10回、レターとともに送付している。また年間の事業報告書、評価報告書をウェブで公開することと併せ、法人会員に送付している。大口法人寄付者である第一生命保険には、運営会議と称して定期的に活動状況を詳細に報告している。

・劇場・音楽堂等間のネットワーク形成のため、東京文化会館、サントリーホール、東京芸術劇場と4館連携「若手演奏家支援事業」として、一般のお客様向け演奏会を実施するとともに、他ホール担当者と様々な活動取組みについて情報交換会を実施している。

・教育機関とのネットワークとしては、プロデューサーがH28年より昭和音楽大学の非常勤講師としてアートマネジメントコースの授業を担当。また、地域創造「ステージラボ川崎セッション」や、コーディネーターKissポート財団職員対象の事業高度化研修及び「すみだ川アトラウンド」ピア・レビューで、プロデューサーやディレクターが講師を務めた。学生は毎年インターン、またはサポーターとして受入れており、R4年度も昭和音大・一橋大大学院・東京藝大から各1名、計インターン3名を受入れた。